

第29回

道教組定期大会に参加して

三月十二日(土)から十三日(日)の二日日程で道教組第二十九回定期大会が、札幌の北海道高等学校教職員センターで開催されました。網走教組からは、山本先生と上田の二人が代議員として参加しました。

冒頭の川村執行委員長のおいさつは、「市民が自分で判断し動き出しているという話でした。三・一一の影響は甚大で、被害の大きさや悲しみの深さは計り知れないが、原発の安全神話が崩れて、守られていると信じているだけでは駄目だ」という認識が広がってきた。自分で判断し命を守ることに、それが教訓だと被災地の方々が気付いているということ。戦後七十年目の節目の年に戦争方が可決された暴挙。しかし、それに反対する動きも大きくなって、若者やママさんたちが、自らを脅かす者へ声をあげて、命を守るということを突き詰めて考え最重要課題は何であるかを認識していること」

をあげました。「安倍教育再生が『企業が世界で一番活躍できる国づくり』を標榜しようとも、学力テストの延長で内容の教育内容の画一化を迫ろうとも、教職員組合の多種、多様な教育実践がそれらの企みを打ち破る力となるということに確信をもつて教師が教育実践を行うこと」の大切さ話されました。

梶木書記長からの議案の説明を受け、議案の討論に入りました。今回の討論は柱Ⅰが「憲法・生活と権利・平和と民主主義」、柱Ⅱが「教育問題」柱Ⅲが「組織拡大・専門部」と設定されました。参加者している多くの代議員から発言が出されました。幾つかの発言を紹介すると次の通りです。

日高連絡会の先生からは、公で戦争反対とか平和や人権問題に関わることを言うにいくくなってきた。保健便りをそのような中身で出すと、保護者から「偏向教育だ」と電話がかかってくる。憲法擁護の立場での動きが政権批判と受け取られアレルギー的な反応がある。戦前のような空気であるが、そんな中だからこそどんなやり方が受け入れられるのか工夫しなければならぬ。共感できない、反対だという人にも受け入れられるためにはどうあるべきか考えたい。という意見が出されました。

また、檜山教組の先生からは教職員の健康と安全を守るための取り組みを進めているという発言がありました。管理職も入れているフリートークイベントを開催して分かったことは労働時間が週八十時間以上が4人、百時間以上の人が3人も

いてデッドライン域であるという現状で校長もショックを受けていたということでした。先生方の意識として「若いので担任がなければならない」「定時では話す時間がなくて」「持ち帰りでの仕事はしたくない」などがある。そこで優先順位で①ノー会議、完全退勤デイを水曜日に設定②二十日間年休を使用おうキャンペーン③遠慮無用休養の設定④終了時刻を設定してから業務に入る、などの七項目を教職員で確認して明文化した取り組みが出されました。

全教渡島の先生からは組合の仲間づくりについての発言がありました。数年前から定年退職者が抜けていく中で人数減が進行し、全ての組合員が年一度は顔合わせできるように定期大会から定期総会に変えたこと、組合費の回収と事務所の維持が問題になっている旨話がありました。特に未払い者への対応はしつこいとかえって止めてしまいう懸念から、何か取り組みがある度に連絡を取り、顔見知りの先生がお宅訪問をして関係を切らない努力をしているといった努力で「声を聞く、顔を合わせる」を大事にしているといった内容が話されました。

このような発言が柱Ⅰに4本、柱Ⅱに5本、柱Ⅲに15本、五号議案(再任用教職員の臨時闘争費・専従補償費徴収について)に2本の合計26本出され盛会のうちに総会は終わりました。網走教組代議員もそれぞれ発言を行いました。また、来年度の本部役員も全会一致で承認されました。



書記の養島先生「勇退長い間、ご苦勞様でした

一三年もの長い間、網走教組を影で支えてくださった養島先生が、三月三十一日をもって書記の仕事を下りることとなりました。長い間、ご苦勞様でした。

専従を置くことができない網走教組では、書記の存在がとて大きく、書記がいてくれるおかげで、事務所の管理をはじめ、活動全般にかかわって、スムーズに行うことができるのです。しかし、今回、養島先生が書記を下りるということになり、今後の書記の問題について検討しなければならなくなりました。

四月二日(土)の支部代表者会議の前段に、この書記の問題についての話し合いを持ちました。できるだけ多くの組合員に参加してもらおうよう呼びかけましたが、当日は、七名の参加にとどまりました。集まった組合員で、今後の書記について話し合いました。話し合いの結論は、次の通りです。

- 今年度については、書記を置かない。
- 書記の仕事は、本部執行部と北見支部で行うことを基本にしつつ、他の支部でもできることは手伝うようにする。
- 具体的な仕事分担は、次回支部代で確定する。

この話し合いの中では、組合活動を維持するためには、書記が必要だという意見が多く出されました。今年度はやむを得ず書記不在で活動することになりましたが、今後、書記を置く方向で考えていくこととなります。高教組との連携を強めていくという確認もあり、書記の一本化も視野に入れながら検討していかねばなりません。そのためには、高教組との話し合いも必要になってきます。